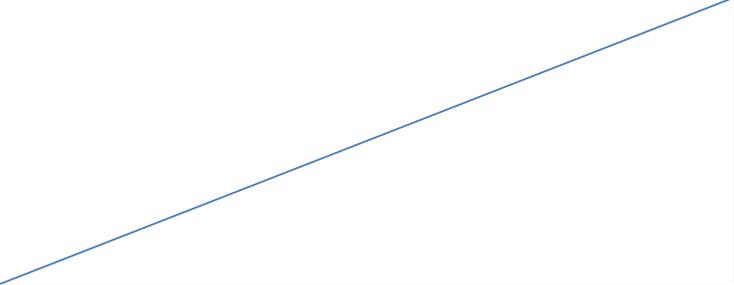


## 評価委員からの質問項目について

病院名等 こころの医療センター駒ヶ根

対象の病院	質問項目	回 答
本部・全病院	<p>地方独立行政法人化について</p> <p>(1)独法化の活用にあたって、最も取り組んだ課題は何か。また、その成果と問題点は。</p> <p>(2)独法化後の看護師確保の取組と成果は。</p>	<p>(最も取り組んだ課題)</p> <p>24時間365日対応の精神科救急や児童精神疾患の専門医療など、県内の精神科医療を支える中核病院として、多様なニーズに応えるため、高度な専門医療の機能を維持しつつ、中期計画の目標を達成できるよう取り組んでいる。</p> <p>(取組みの成果)</p> <p>独法化により、随時採用、プロパー化の推進が可能となり、医療従事者の充実が図られた結果、特に医師については、平成24年度から平成25年4月までの間に、5名を採用することができた。また、退院促進と多職種によるチーム医療の展開が可能となり、全国の精神科病院の中でトップレベルの医療の質を確保している。</p> <p>さらに、独法化により、予算執行の自由度が高まる(医師確保対策費、院長裁量費等)とともに、行政的な発想から脱却し、各職員が経営意識を持って業務に取り組めるよう、病院運営会議等を活用して、職員の意識改革を図った。</p> <p>(問題点)</p> <p>医療技術職員等の充実は図られつつあるが、看護師は充足しておらず、看護師の確保が引き続きの課題である。また、医療技術職員や事務職員のプロパー化の更なる推進も課題となっている。</p> <p>なお、質の高い医療の提供により、平均在院日数の短縮化(H23:75.4日→H24:64.5日)が進んでいることもあり、病床利用率は低迷している(H23:74.6%→H24:71.2%)。その対策として、入院収益を確保するため、病病連携等によって新規患者の獲得や、新しいニーズに応じた医療体制の整備に努める必要がある。</p> <p>(取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機構独自で看護学生修学資金を創設し、看護職員の確保を図っている。</li> <li>(当院の修学資金貸与者は3人)</li> <li>○ 看護師養成校への積極的な訪問により、看護職員の確保に努めている。</li> <li>(平成24年度訪問実績 県外9箇所、県内14箇所、地元高校)</li> <li>○ 看護師紹介事業者の活用(H24採用実績1人)</li> <li>○ 看護学生インターンシップを実施。</li> <li>○ 魅力ある職場を実現するため、研修の充実等により、キャリアアップを図っている。</li> <li>○ 聖路加看護大学からスーパーバイザーを派遣してもらい、看護師の資質向上に取り組んでいる。</li> <li>○ 入職2年目の新人看護師が、身体科病院で派遣研修を受けられる仕組みを構築し、幅広い知識や技術の習得に努めている。</li> <li>○ 資格取得や大学院での修学を目指す職員に対し、資格取得等がしやすい職場環境づくりに配慮している。</li> <li>○ 機構の看護職員として、必要な能力開発に取り組むため、キャリア開発ラダー制度を導入した。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 独法化前より看護職員11人増加。</li> <li>○ 精神科薬物・アルコール依存症看護 認定看護師 1人取得</li> </ul>

	<p>(3) 今後、看護師確保について、新規戦略で考えていることがあるか。</p>	<p>看護師確保には、多くの看護師養成校との太いパイプを築くことが最も効果があると考えている。新人看護師を確保し、専任の教育担当者を配置することによって、その育成に努めていきたい。</p>
<p>本部・全病院</p>	<p>収支結果について</p> <p>(1) 自院の収支結果をどのように思っているか。特に、県からの繰入金相当額がなかった場合の収支結果について、どのように思っているか。</p> <p>(2) 自院のレゾナードル(存在意義)を県民の方々にどのように説明されるか。</p>	<p>当院は、県の精神科公的中核病院としての使命を担い、質の高い専門的・政策的医療を提供する責務があり、公共的な見地から、精神科救急等の不採算医療にも積極的に取り組まなければならない使命がある。</p> <p>また、改築検討委員会による検討を経て提言された改築マスタープランにより、病床数が削減された一方で、政策的で不採算である救急や専門医療に特化した新病院として生まれ変わった。</p> <p>これにより、当院は、病床数に応じて算定される繰入金が増えた一方で、病院の改築や電子カルテシステムの導入に伴う減価償却費の増加などにより、構造的に収支の均衡がとりにくいものとなっている。</p> <p>新病院となって、外来収入は外来患者数の増加により増えたものの、入院収益は平均在院日数の短縮による伸び悩みの面があったが、新たな施設基準(精神科急性期治療病棟入院料等)の取得や経費の節減といった経営努力を行った。</p> <p>このような経営努力に加え、当院が県立病院の使命として積極的に取り組んでいる採算がとりにくい児童精神科を始めとする政策医療に対する県からの繰入金により、経常損益は、約1億円の損失となったものの、中期計画を上回ることができている。</p> <p>当院は、精神保健福祉法第19条の7に基づき県立の精神科病院として開設し、改築検討委員会による十分な検討を経て提言された改築マスタープランに基づき機能と役割が明確にされ、改築とともに、時代と地域の要請に応え、救急や質の高い専門医療の提供を行い得る病院に生まれ変わり、本県の精神科県立中核病院としての使命を担い、それを十分に果たしている。</p> <p>当院は、精神科救急医療の常時対応型施設として、また児童精神科病棟や医療観察法ユニットを持つほか、アルコール・薬物依存症等に取り組み、高度なm-ECT(修正型電気痙攣療法)を行うなど、全県下の患者を対象に質の高い専門的・政策的医療を行っている。</p> <p>また、良質な療養環境と充実したスタッフによる質の高い医療やデイケア、訪問看護といった地域生活支援により、患者の人権に配慮した医療を実践するとともに、平均在院日数は64.5日(H24実績)と短期間で退院を図っており、精神科医療に求められている早期治療・早期社会復帰を実現している。</p> <p>さらに、医師、看護師、コメディカルの研修生を受け入れ、県内の医療人材の研修・教育に積極的に取り組むなど、唯一の県立精神科病院として、本県精神科医療のため大きく貢献している。</p>

<p>本部・全病院</p>	<p>(3)上の2つの問いに対する回答について、両者の間の整合性をどのように思われるか。</p>	<p>行政からの不採算を補うための繰入金は、引き続き必要不可欠なものとする。</p> <p>当院は、独法化により、収支改善の余地のある病床利用率の向上や経費等の節減に向けた経営努力を不断に行っていく必要がある。</p> <p>具体的には、病床利用率を向上に向けては、職員全員の経営意識の向上、断らない医療の徹底、増加中の外来患者のニーズに応える医療、患者やその家族を満足させながらの適正な入院期間の確保、病病・病診連携等による新規患者の獲得に取り組んでいる。</p> <p>また、精神保健指定医の養成に向け積極的に取り組むこととした。</p> <p>さらに、経費節減に向けては、外部専門家による支援を受けながら、当院が持つ省エネ機能をより有効に活用できるよう、当院独自のエネルギー対策などに取り組んでいる。</p>
<p>須坂病院</p>	<p>看護師等の確保について (1)院内保育所「カンガルーのぼっけ」の現在までの成果と、今後の改善点は。</p>	

## 病院名等 ころの医療センター駒ヶ根

対象の病院	質問項目	回答
本部・全病院	<p>看護師確保対策について</p> <p>(1)採用に向けて種々の試みを努力されているが、継続に向けての取組(離職率を下げる)について、どのような具体策(勤務時間、勤務形態、家事・育児との両立のための方策など)が講じられているか。</p> <p>(2)潜在的看護師が全国で50万人以上いると言われていたが、再就職のための研修や労働環境整備の方策は講じられているか。</p> <p>(3)採用にあたって、給与体系、労働環境等、他と差別化してアピールする余地はないか。</p>	<p>○ 子育て中の職員が、育児短時間勤務、育児部分休業を活用して、自分のライフスタイルに合った勤務形態を選択することができる。</p> <p>○ 休暇の取得希望や、深夜勤務が体力的に厳しい中高年齢看護師に対する深夜勤務の調整等、本人の希望や状態を最大限考慮して勤務シフトを組むよう努めている。</p> <p>○ 看護師のキャリアアップと病院の機能向上を図るため、看護師が研修等を受講できるよう、院内の協力体制を構築している。</p> <p>○ 再就職に当たって、知識や技術面で不安を抱える看護師に対し、研修センターと連携して、随時サポートを行える態勢を準備している。</p> <p>○ 家庭環境により、交代勤務やフルタイム勤務が困難な看護師については、有期雇用により採用し、家庭の事情が解消した場合は、選考により正規採用している。</p> <p>○ 多職種によるチーム医療を積極的に展開し、魅力ある職場づくりに努めている。</p> <p>○ 病院改築により、施設設備面で働きやすい環境の中で勤務できる。</p> <p>○ 看護職員については、質の高い看護を提供するとともに、院内研修等を通じて新人看護師の資質向上に努めている。</p> <p>○ 早期治療・早期退院に努め、退院後に地域で安心して生活できるとともに、早期社会復帰を図るといった先進的な精神医療を実践する病院を目指している。</p>
須坂病院	<p>専門医療の提供について</p> <p>(1)地域医療・専門医療の提供に関し、種々努力をされているが、より専門化に向けて検討する余地はないか。</p>	